

たんぼの中から見えてきたこと

いちのたんぼの会からの報告

いちのたんぼの会（福岡県大牟田市）

樋口茂敏

1. 「いちのたんぼの会」の概要

大牟田市南部の中山間地である櫟野(いちの)在住の有機農家・山下公一さんの段々畑(棚田)で、消費者(市民)が農作業を楽しむ会として、2003 年にスタート。会員数は約 40 名。毎週水曜日、土曜日の午前中に農作業を定例化している。農作業への参加は毎回 10 名程度。

<栽培以外の主な活動>

- (1) 「くぬぎ保育所」の給食への食材提供 2012 年より
- (2) 保育所、小学校の農業体験
くぬぎ保育所、天領保育所、光の子幼稚園、玉川小学校。田植えと稲刈り体験。2012 年より。
- (3) 大牟田市被保護者就労支援事業(農業ボランティア) 2010 年より
- (4) 福島県二本松市の真行寺の青空市に無農薬野菜を送る (2013.6～2013.3 毎月)

2. 食と農の課題に関する取り組み(前史)

(1) 農業者と消費者をつなぐ経験交流会

- ①第1回 2006 年 8 月
基調報告 福岡県農業協同組合中央会水田農業対策部長 高武孝允氏 実践報告 3 名
- ②第 2 回 2008 年 8 月
基調報告 熊本大学文学部総合人間学科教授 徳野貞雄氏 実践報告 2 名
- ③第 3 回 2010 年 8 月
基調報告 西日本新聞論説委員 佐藤弘氏 実践報告 3 件(4 名)
- ④第 4 回 2012 年 8 月
基調報告 九州大学農学研究院 佐藤剛史氏 実践報告 1 名

(2) 主要農作物種子条例制定を求める取り組み(広範な国民連合・福岡との共同行動として)

- ①緊急学習会「タネはどうなる」(大牟田市) 2018.8.26 講師:元農林水産大臣 山田正彦氏
- ②大牟田市議会「主要農作物種子条例制定を求める意見書」採択 2018.9
- ③広範な国民連合・福岡、県内全市町村議会議長あてに意見書採択を要請 2018.10
- ④福岡県主要農作物種子条例制定を求めるつどい(福岡市) 2018.11.9 講師:山田正彦氏
- ⑤筑紫野市、飯塚市でも山田正彦氏の講演会開催 2019.2. 2019.8
- ⑥コロナ禍の合間を縫って、学習会を続ける
・2020.2.15 講演会「国連の家族農業の 10 年と SDGs」講師:愛知学院大学 関根佳恵氏(大牟田市)
・2020.11.20 映画「タネは誰のもの」自主上映会(大牟田市)
・2021.1.18 映画「種子」上映会(朝倉市)
- ⑦講演と交流の集い「日本の食と農の未来を考える」 2022.4.9 福岡県中小企業振興センター
主催:日本の食と農の未来を考える実行委員会
基調講演「農業消滅—国家存亡の危機を救う道」 東京大学教授 鈴木宣弘氏
各界からの報告 5 本のレポート
*この集会に向けて、各地域・職域で学習会を積み上げてきた。
「食の安全を守る人々」上映会 5 か所 「タネは誰のもの」上映会 4 か所

⑧種子条例制定を求める意見書採択自治体が半数を超える

2022.12 朝倉市が採択したことで、県内 60 自治体中、31 自治体が採択したことになる。

⑨福岡県農林水産業・農山漁村振興条例を一部改訂 2024.3

2014 年制定の同条例の第 6 条(主な施策)全 21 項の第 2 項に新たに起項

「2. 農林水産物の優良な種子、種苗等の安定供給及び品質の確保に必要な施策」

＊種子条例そのものではないが、すでにある種子要綱と合わせると、一定の役割を果たすことができるのではないかと評価した。

3. 令和の米騒動を経て (農協や農家のせいだという風評に黙っておれなくて)

(1) みんなで語ろう「食と農の今を考える」 2025.4.19 大牟田文化会館

基調講演「平成百姓一揆～米輸入自由化阻止国会突入の記録 それから 30 年」

農民運動史研究家 内田啓介氏

実践報告 山下公一氏(いちのたんぼの会) 松崎清次氏(城北さんちよく)

船原基近氏(大牟田市議) 井上千代氏・鹿田律江氏(グリーンコープ生協支部)

(2) この準備の過程で「令和の百姓一揆」の取り組みを知る

2025.3.30 令和の百姓一揆に連帯する南筑後行動 (大牟田市東新町交差点)

リレートーク 10 名(農家 3、市議 3、産直 1、消費者 3)(大牟田市、荒尾市、柳川市、筑後市)

参加約 60 名。

この日、福岡市東区でもリレートークとスタンディング。



この二つの取り組みを通して、①南筑後地域における食と農の課題で連携できる条件が生まれた

②県レベルでの取り組みに発展させる

＜同時並行的に＞

(3) シンポジウム・日本の食と農の未来を考える「飢えるか、それとも植えるか」

2025.8.23 第1回実行委員会 9.21 第2回実行委員会 10.25 第3回実行委員会

11.14 第4回実行委員会

2025.11.30 シンポジウム・日本の食と農の未来を考える「飢えるか、それとも植えるか」

基調講演 鈴木宣弘氏 実践報告 3本のレポート

プログラム広告団体 34 賛同者 209 参加者 220

今後の活動について(総括) ・実行委員会は解散せず存続する(各地各団体の活動を交流する)

・情勢に応じて、必要な時に取り組む。

・情報交流の場として「飢えるか、植えるかニュース」を発行する。

(4) 食と農の課題を考える南筑後懇談会

2025.4.14 発足に向けての打ち合わせ(大木町)

2025.7.30 第2回学習会(柳川市) 柳川市の酪農家から報告

2025.10.24 第3回学習会(筑後市) 映画「食の安全を守る人々」上映会

2026.3.29 令和の百姓一揆に連帯する南筑後行動(筑後市) ＊一日だけの行事に終わらせない為に！

2026.4.25 第4回学習会(大木町) 循環のまち・大木町フィールドワーク

2026.8.30 第5回学習会(大牟田市) 中山間地の農業を守る

(5) 令和の百姓一揆に連帯する行動 2026.3.29 福岡県内4カ所で 相互に連携しながら

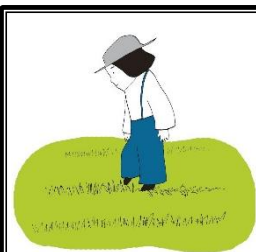
南筑後行動(筑後市) 第1部 講演会「決め手は想像力」元西日本新聞社 佐藤弘氏

第2部 リレートークとスタンディング

筑紫行動(筑紫野市) リレートークとスタンディング

福岡市東区行動(東区) リレートークとスタンディング

福岡市中央区行動(中央区) デモ行進 リレートークとスタンディング



「飢えるか、植えるか」ニュース

No. 3

日本の食と農の未来を考える実行委員会事務局

2026.2.2(月)

樋口茂敏 shigetoshi_h_tanbo@yahoo.co.jp

☎ 090-8415-0998

シンポジウム・日本の食と農の未来を考える「飢えるか、それとも植えるか」開催 連携の輪を広げる第1歩に

シンポジウムは、昨年11月30日、福岡県弁護士会館で開催されました。プログラム広告には34の団体が協力していただき、210名の方が賛同してくださいました。当日は220名を超える参加者で、会場は定員いっぱいという盛況でした。基調講演で鈴木宣弘東大教授は、この国の食と農の危機的な状況の本質は何かということ、ユーモアを交えて、極めて明快に解き明かしました。3本の実践報告も素晴らしい内容でした。

筑紫野市の中川農園・中川富士雄氏は、中山間地で有機農業に取り組むことの価値と、猪などによる食害との闘いの苦労を語られ、生産者も消費者も困っている現状を解決するには政治の力が必要だと力説されました。

グリーンコープ生協北九州地域理事長の安部百々氏と、鳥越ネットワークの鳥越耕輔氏は、田川郡赤村で展開されている生協の赤村プロジェクト、生産者と消費者の連携について報告。とりわけ注目されたのは、生協の酪農自給圏の牧場の飼料となるトウモロコシを、耕作放棄地で育てる。そのためのコンバインなどの農機具を生協が出資するという取り組みでした。新規就農者への初期投資を支援していることも報告されました。

糸島の田縁プロジェクトの川口進さんは、消費者が耕作放棄される棚田で米作りする「耕す消費者」の取り組みを報告されました。会員は170世帯。年に最低1回は農作業に参加することが条件。採れた無農薬米は会員が予約して買い取り、その売り上げの中から地権者に借地料を支払う。26枚、250アールの棚田を耕作している取り組みは、参加者に驚きをもって迎えられました。鈴木教授は、「この取り組みはひとつの理想形だ」と評価されました。

このシンポジウムの全体像を伝えるために、記録集を発行しました。ぜひこの一冊をお手元に。



「飢えるか、植えるか」ニュース を交流の場に

1月31日にシンポジウムの総括のための実行委員会を開きました。その中でこの実行委員会の在り方について議論し、概ね次のように決定しました。

- ①今回の取り組みの中で生まれた団体、地域、個人の繋がりを大切にするために実行委員会を存続させる。
- ②この課題での個々の取り組みがある場合、情報を交流し、協力し合う。
- ③そのための情報交流の場として、「**飢えるか、植えるか**」ニュースを発行する。
- ④実行委員会に参加している団体、個人の取り組みだけでなく、広くこの課題での情報を掲載し、交流の場を拡げる。
- ⑤当面の課題として、3月29日に予定されている「令和の百姓一揆」に連帯する取り組み県内各地で行う。

この決定に沿って、「**飢えるか、植えるか**」ニュースをお届けします。このニュースは当面、E-mail で発信します。



記録集 販売 100 円



「飢えるか、植えるか」ニュース No. 9

日本の食と農の未来を考える実行委員会事務局

2026.7.11(土)

(連絡先) 樋口茂敏 shigetoshi_h_tanbo@yahoo.co.jp

☎ 090-8415-0998

<ご案内>

小農学会市民公開講座(令和の百姓一揆連動企画)

◆とき 7月26日(日)午後1時～午後5時(開場:午後0時半)

◆ところ 福岡市城南区別府5の7の1 中村学園大1号館10F大講義室 (300人、予約優先)

◆参加費 一般:1000円(資料代、26年度学会誌付き) 小農学会会員(無料、年会費3000円)

◆テーマ: 「もうすぐ農家がいなくなる?～未来を語り、あなたにできることを考えよう!」

報告 令和の百姓一揆について 菅野芳秀氏

講演Ⅰ 「農的小日本主義のすすめ(仮題)」 前衆議院議員 篠原孝氏

パネルディスカッション

座長 八尋幸隆氏(福岡県筑紫野市・むすび庵庵主)

パネラー 菅野芳秀氏(山形県長井市・菅野農園)

川口進氏(福岡県糸島市・井原山田縁プロジェクト主宰)

篠原孝氏

講演Ⅱ 『百姓・宇根豊と考える農の哲学』(農文協)上下巻同時刊行記念

宇根豊氏

★問い合わせ 小農学会事務局: sckeiroku@outlook.jp 佐藤: 090(4989)1255



食と農の課題を考える南筑後懇談会 第5回学習会

第4回学習会は、大木町の皆さんに大変お世話になりました。第1回会合(準備会):大木町⇒第2回学習会:柳川市⇒第3回学習会:筑後市⇒第4回学習会:大木町と巡回してきましたので、今回は大牟田が担当することになりました。テーマは「中山間地の農業を守るために」です。

◇とき 8月30日(日) 14:00～16:00

◇ところ 大牟田恵愛園 地域交流スペース (大牟田市新勝立町3丁目5-15 ☎0944-51-8750)

◇テーマ 中山間地の農業を守るために

<報告> 「私が農家をめざした理由(わけ)」 大牟田市議会議員 船原基近氏

大牟田市議会議員の船原氏は、この度、お身内の農地を相続し、めでたく農家になりました。なぜ市議が農家をめざしたのか、その過程の手続きの煩雑さの中から見えてきた矛盾、そして中山間地農業を守るための思いなどを、熱烈報告。

<講演> 「中山間地でも生き残っていくために」 株式会社鳥越ネットワーク社長 鳥越耕輔氏

中山間地である田川郡赤村では、以前から有機農業に取り組む農家が多く、北九州のグリーンコープとの交流も盛んでした。1980年生まれ鳥越氏は、父親の跡を継ぎ、いくつかの法人組織を立ち上げるなどして、地域の農業を守る取り組みを続けています。

◇参加費 300円

*終了後、交流会を予定しております。